

館報



12月号

やまがた

No. 788

令和3年
(2021年)



※表紙の写真は撮影のためマスクを外してもらっています。

地域のために

のぐち ちえみ
野口 千恵美さん (下大池)

地域の役に立ちたく、もともとは生まれ故郷の診療所で看護師になりたかった千恵美さん。縁あって山形村に嫁いできて、第二の故郷で看護師として働きだして7年目となった。大変な職種ではあるが「職場の皆さんに助けをもらいながら、家族の支えもあって頑張っています」とのこと。やりがいを探ねると「“ありがとう”と言ってもらえることが一番うれしい」と笑顔で語ってくれた。

(12月4日 横山医院にて)

働き姿

ちっちゃな発表会 賞状授与式

11月18日(木)、山形小学校でちっちゃな発表会賞状授与式が行われました。この賞状は山形村公民館と村文化団体連絡協議会が選定した作品に贈られるもので、作者のこだわりが感じられるものや思いが伝わってくる作品が選ばれました。



受賞者の皆さん、おめでとうございます!

作品の中には『ハートの卵』や『宇宙の絵』など個性的なものがたくさんありました。受賞者は「とてもうれしい」「一生懸命描いて良かった」と話してくれました。賞状をもらった表情がにこやかにとても印象的でした。

山形小学校 持久走大会

11月19日(金)、山形小学校で持久走大会が行われました。今回は高学年のみの大会で、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大のために行われず、2年ぶりの開催となりました。スタート前に児童たちに話を聞くと、「上位を目指して休み時間を利用して練習してきた」「練習の時よりも順位を上げたい」などと話してくれ、大会への意気込みを感じました。

競技中では児童たちの一生懸命走る姿がとても印象的で輝いていました。保護者たちは「頑張れ!あと少し!!」などと声をかけたり、大きく拍手をして応援していました。大会終了後の反省会では、「目標より順位が上がって良かった」「きつかったけど周りの応援で頑張れた」などと発表していました。児童たちの走る姿に保護者や先生方も感動したのではないのでしょうか。



やまのこ保育園

今年も焼き芋会に向けて、苗植えから収穫、焼き火用の薪拾いと時間をかけて準備をしてきた園児たち。さつまいもの泥を洗い落とす作業では、水が冷たいけれど美味しく食べられるようにと小さな手で丁寧に洗っていました。当日は、未就園児の親子を招いての『やまのこ広場』も開催し、一緒にさつまいもをアルミホイルに包み、焚き火の中へと投入。じっくり火が

山形保育園 環境整備

11月13日(土)に行われた秋の環境整備では、主に落ち葉清掃や草木の片付けをしました。また、普段では手入れが行き届かない下駄箱や遊具庫の整理整頓も行われました。参加した保護者や先生方の姿から、これからは園児たちが気持ちよく遊べるよう心を込めて作業しているように感じました。



落ち葉がいっぱい!

焼き芋会

11月17日(水)

通ったほっかほかの焼き芋に心も体も温まり、嬉しそうにほおばっていました。

山形保育園

この日は、晴天に恵まれ絶好の焼き芋会日和。焚き火用の枝や落ち葉はなろう原公園や園庭から、みんなで協力して集めてきました。さつまいもは農家組合の方と一緒に保育園の畑で育てて園児たちが一生懸命収穫したものです。焼きあがったさつまいもをほおべる園児たちはみんなニコニコ大満足の一日となりました。



美味しく焼けたね!



美味しくな〜れ!

山すそ

近年、景気が良いと言えないのに株価が不釣り合いに高いと感じる。以前は株価が高ければ景気が良いと考えても大きく外していなかったと思うが、現在の状況には当てはまらない。経済に限らず気候や電子技術など、既成概念では捉えきれない状況が多くなつたと感じる▼先日、飲食業を営む方からランチやテイクアウトはほとんど利益にならないという話を聞いた。正直、テイクアウトでの商売をしやすい環境をつくれれば救われる人も増えるのではと考えていたが、どうやら相手の立場になりきれていなかったらしい。なるべく相手の立場で物事を見聞きするよう心掛けていたつもりだったが、悔しい限りだ▼想定していても現実がその通りにならないというのは良くあることだが、さまざまな技術の進歩によって、今後、その傾向はますます強くなると思う。そこではきつと物事の『流れ』や他者を良く『理解する』というスキルが求められるに違いない▼欲しいものは分かった。次はどうやって手に入れる?かだ。

昭和37年7月、村で最初の有線放送の設備が完成し、農事放送や有線電話を開始しました。葬儀日時を有線放送で流し始めたのは昭和41年4月のこと。当時、発足された新生活運動推進協議会によって『新生活運動』が提唱され、葬儀の簡素化や香典の金額負担等、冠婚葬祭に関する改善が呼びかけられました。各家庭で亡くなった方がいると、新様式で慣行するようになると葬儀日時の案内と一緒に有線放送で呼びかけたことが発端でしたが、いつしかお悔やみを伝える放送として村民の間に浸透しました。

*『新生活運動』開始当初については、『館報やまがた縮刷版第1号（山形村図書館にあります）』の昭和41年4月号をご参照下さい。

放送の始まりは『新生活運動』



地域の繋がりを支えた村の風習
『葬儀のお知らせ』
終了を思う

『お悔やみ放送』の呼び名で暮らしに定着してきた『葬儀のお知らせ（以下：放送）』が今年8月末をもって終了しました。開始から55年間、山形村独自の風習であった放送を村民の皆さんの声と一緒に振り返ります。

村民の皆さんに放送への思いを聞いてみました。

ながく村に住んでいると「お世話になった方に義理を欠いちゃいけない」と放送が流れるたびに耳を澄ましていました。放送の終了は残念ですが、明るい内容ではなかったので、すべての人には馴染めなかったのかもしれませんが。



(中大池 60代 女性)



(小坂 70代 男性)

亡くなったことをご遺族に自分からは聞けないので、放送があった方が便利でした。コロナ禍で多くのことが簡略化し、人との繋がりが自分たちの地域に関心が持たなくなっていると感じます。村の良さや風習を時代に合った形で継承して欲しい。



(下竹田 30代 女性)

実際に放送を耳にしたことはないですが、存在は聞いたことがありました。村外から転入してきたため、山形村の冠婚葬祭の地域のルールについて知らないのので、本誌で紹介してほしい。

『新生活運動』は、高度経済成長期に派手で物質主義の暮らしに対し「質素に、節約しよう」という考えで始まりました。費用を抑え、食べきれない料理の無駄を改善したことは松本平一帯でみても山形村だけの取り組みです。昔はお葬式というと隣近所が集まり、皆で故人の旅立ちを見送ったものです。同じ村で生きてきた人との繋がりを大切にする地域の文化があったし、放送にもそんな思いを感じていました。近代化よりもあたたかな田舎を作っていた方がいい。



(小坂 80代 男性)

告知放送に代わる情報手段を計画中

令和2年4月より当課で『葬儀のお知らせ』や『朝のお知らせ』などの告知放送を担当してきました。



役場企画振興課 藤沢 洋史 課長に聞く

住民から放送の時間帯や音量についての問題提起を受け、見直しの必要性を感じていた矢先、同年6月に放送機器の老朽化で誤作動が生じました。放送自体の検討が行われ、新生活運動推進協議会からは存続してほしいという意見を頂きましたが、今年4月、各地区にお住まいの20代〜80代の方へ放送の必要性についての聞き取り調査を実施しました。結果は約7割が必要を感じていないと回答され、放送以外の情報の入手方法を希望されていることがわかりました。老朽化した機器の更新にも多額の費用が見込まれ、従来の放送から新たな方法へと移行することが望ましいという決断に至りました。放送が終了して困っている方たちの気持ちにも応えていけるような新たな情報の提供手段を検討しております。

今回の取材で、放送は人との繋がりと恩義を大切にしてきた山形村民の象徴であったことが感じられました。こうした風習は地域に暮らす人たちが必要に応じて作った生活の知恵ですが、個人の生活様式が多様化する現代においても、困ったときには「助け合える、繋がれる」といった山形村の地域文化を住民と行政でつくっていくことが求められます。

明るい未来に向けて！ 2021年を振り返る



新年に願った新型コロナ終息はかありませんでしたが、今年もいろいろなことがありました。みなさんはどうだったでしょうか？

8名の方に今年を振り返っていただきました。

皆に感謝



塩原 しのぶ
(中大池)

今年、忙しくも充実した1年でした。

長い育児休暇が終わり、フルタイムで働き出して生活がガラリと変わりました。朝早くから夜遅くまで働き、平日はほとんど家にいない状態で子どもたちにはさみしい思いをさせています。そんな中でもそれぞれの場所でも頑張つてどんどん成長していくわが子たちに「ありがとう」と感じる毎日を過ごしています。

仕事は、本当に久しぶりで「社会に出る」ということが不安でしたが、実際始まってみると忙しさの中にも楽しさや、やりがいを感じ、充実しています。

私がこうやって毎日働けるのも、サポートしてくれる夫や両親、子どもたちの存在、色々と気にかけてくれる友だちや職場の同僚、まわりにいるみんなのおかげです。皆に感謝して1年をしめくくり、来年へつなげたいです。

朝な夕なに牛たちと



たかお
加納 孝雄
(小坂)

世界中を翻弄のコロナ感染も2年目。新たに出現のオミクロン株にも大苦戦。東京オリ・パラの開催は賛否分かれたが、まずは感動で幕。そして、二刀流大谷翔平選手のあの圧巻の活躍。悲喜こもごもの今年もあとわずかだ。

私めの2021年は、高所からの落下事故で骨盤の複雑骨折、大手術を受けて10年になる。その後遺症で、今度は右の股関節を人工骨にする手術も受け6年経過。20頭余の子牛の飼育が私の毎日の仕事だが、よくこの痛い足腰で1年間牛たちと向き合ってきた。

ところで、今、80の手習いで時々朝夕の食事作りに挑戦している。頭の劣化防止にもなつて楽しい。人生100年時代というが、私には無理。夢とか希望などとは縁を切り、川の流れるように静かな生き方でもう少しがんばりたい。

コロナ禍の1年



ひろし
浦野 広
(下大池)

昨年が続いて今年もコロナに振り回された年でした。第2波から第5波と目まぐるしく襲ってきた。ここに来て漸くワクチン効果が発揮(?)したか沈静化の兆しが見えた矢先に新たなオミクロン株の発生。いつまで私たちを苦しめるのか、全く先が見通せないのが現実である。先日テレビで「コロナによって人類は滅びない」と話を聞いて多少納得した気になっている自分がいた。

さて、第1回松本マラソン開催を機に運動を始めたが、中々記録どころか完走も無理だったが今年3月の通称「春ラン」で遂に完走できた自分の成長に驚いた。元々身体を動かすことは好きな方だから、この勢いでフルマソンも完走と思ったが、またしてもコロナに邪魔?され記録は来年のお楽しみ。こんな時だからこそ、夢とか楽しみを持つて頑張つてみませんか。明けられない夜の言葉信じて。

昨年の続き



ともひろ
遠藤 知宏
(上竹田)

相変わらず思うように出掛けることもできずに、何かと気を使う毎が続いております。まあ文句を言ってもしょうがないので、おうち時間を充実させるべく本を買って漁つて本棚に並べてみたり、好きな絵本作家さんの絵を飾つてみたり、ちよつと良いウイスキーを飲んだりしております。意識高いですね。このままだとマイルス・デイヴィスを聴きながらコーヒをガリガリすることにたりそうです。意識高いですね。

世の中がどんどん便利になつたおかげで、家に居ながら買い物もできるし、遠くの家族や友人と飲み会もできます。紙の本とかレコードとか、お店に足を運んでお茶を飲むことは贅沢な事だったんだなあと気付きました。

コロナ禍の中で、それだけは良かったことだったんじゃないかな、と思っております。

丁寧な努めること



むたいともたか 務臺 朋孝 (上大池)

私は平成30年春よりこの8月まで凡そ3年と半年の間、お寺の修行道場に於いて修行生活をさせて頂いておりました。突如として流行したコロナウィルスの脅威の中、より一層身の引き締まる思いでありました。道場での生活は今までのあらゆる行いを改めて見つめ直すこととなりました。はじめは右も左も分からず、生活についてゆくことに精一杯でしたが、次第に、「道場で決められた規則通りに生活をする」というものから、「それを自分の中に落とし込み、行いを修める」ものとなりました。また、その生活の中で、何か一つのことを疎かにすると、全てが疎かになることを学び、それからは一つ一つの行いを丁寧に努めました。とても単純なことですが、身をもつて学ばせて頂きました。これからは父の元、お寺の護持に努めます。何かに礼をつくす時、その合わせた掌には、指先まで神経がはたらいているかどうか。常に自問自答し、丁寧に修行に参ります。

祈じやんずら開催!



よしお 清原 義雄 (上竹田)

札幌からのUターン6年目、還暦を迎えた令和3年。正直、「年金を受け取るまでの5年をいかに過ごせばよいか」、貯蓄を崩していく生活に心細さを感じながら迎えた新年。加えて昨年末はコロナ禍初年「異常な、寂しい、年末年始」と思った通り、毎年恒例となつている小学校の級友と語らう場も作れず、第一家と過ごすことも出来ず、味気のない年の始まりでした。しかし、後半は貴重な経験をしたおかげで糧となる新たな興味が湧きました。7月末の新型コロナワクチン1回目接種後、たまたまのぞいた信大農学部HPに「農食福連携プログラム」を見つけて、9月オンライン講義、10月見学・実習で伊那キャンパスへと通い、11月は研修で小野廣志さん(上竹田)の下で長芋収穫に関わらせて頂きました。作業中に腰が痛くなり、伸ばしたら松本平が見下ろせて、小学校の校歌が浮かんできて…。忙しくも充実した日々を過ごしました。祈じやんずら開催!

エンジョイ田中家



やすと 田中 康人 (下竹田)

昨年に引き続き、コロナ禍での自粛行動を継続する中、1番の変化は子どもが高校卒業と共に家を離れ、夢への第一歩を歩み出したことです。それまでは、子ども中心の生活でしたが、夫婦二人になり日々の会話もガラリと変わりました。自分の趣味でもあるウォーキングを妻に勧めたところ「今度一緒に歩く」と言うではありませんか!実は、1週間続けば上出来という思い。あれから数ヶ月、今ではスカイパーク一周、諏訪湖一周が習慣になりました。そんな光景を想像すらしなかったのですが、歩きながらの何気ない会話は、自分にとつて心地よく穏やかな気分になる時間です。一方で、一人暮らしの息子から送られてくる料理の写真に私も影響を受け、たまにはあるが料理をするようになりまし。妻にも美味しいと言ってもらえ、自己満足に浸っています。何はともあれ、家族全員が無事に過ごしていることが一番の幸せです😊

高原の美化に励む



中川 俊覚 朋子 (清水高原)

下界の雑踏とは切り離された空間での生活。去年9月に清水高原に越して1年と少し。殆ど雪が降らない土地で生まれ育つため、冬の雪が新鮮に感じます。森に定住してさまざまなことに『有難さ』を感じ、自らも自然の一部だと実感しています。ひとつ、去年から実践していることが『掃除』。清水高原は別荘分譲が始まって約半世紀。経年劣化ともいえず状況で唐松・熊笹が生い茂り、このままでは放棄別荘地になるのではと、家の周りの道路から熊笹・雑草を刈り始めました。1年経ち、わが家の周りに留まらず離れた道路まで掃除の範囲を広げています。昨年末から始めた各種SNSへの清水高原の登録も多少効果を発揮したのか、登山者に出くわすことも増えました。おもてなしのためにも道路を綺麗にしていきたい。

皆様の手が届く頃は今年も残すところわずか：昨年より新型コロナウイルス終息を願いつつ、まだ気が休めない毎日が続いています。新しい感染株などあり不安も尽きませんが、医学の進歩も負けてはいないはず。牛歩戦術で今年を乗り切り、来年は少し自由にトラバしたいですね。

山形村データあれこれ

人口	8,584人
男	4,231人
女	4,353人
世帯数	3,124世帯
出生数	42人(20人減)
死亡数	89人(11人減)
転入数	245人(29人減)
転出数	275人(15人減)

※カッ内は昨年同月との比較
(役場住民課調べ、11月末現在)

村内における人身事故

負傷者	12人
死亡者	0人

(松本警察署調べ、11月末現在)

村内における消防出動

火災	2件
救急	239件
救助	1件
その他	32件

(松本広域消防局調べ、11月末現在)

Yふるさとレンジャー隊 バードウォッチング&巣箱づくり

■バードウォッチング

11月7日(日)、Yふるさとレンジャー隊(以下…YFR)がなろう原公園とその周辺を3時間ほど散策しながら、見つけた野鳥を記録していききました。数十分の間、電柱の上で獲物が出てくるのをじっと待ち続ける『ノスリ』や、入れ替わり立ち替わり柿の実をついばむ小型の野鳥など、24種の野鳥を確認することができました。当日は素晴らしい小春日和で生き物の動きが活発だったおかげか、比較的多くの種類が観測できたそうです。

普段は意識していませんでしたが、改めて観察すると動きや鳴き声など個性豊かな野鳥がいることに驚きました。



山形村消防団秋季総合訓練

11月7日(日)、トレーニングセンターグラウンドで山形村消防団秋季総合訓練が行われました。9月に予定されていたところ、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になっていましたが、一旦小康状態になったことで訓練ができる運びとなりました。家屋倒壊救出訓練・放水訓練等、主に有事の際の大事な訓練をすることができました。消防団員は有事の際どう動くか、どうしたらよいかを訓練を通して身につけ、山形村を守る重要な任務に就いています。



生き生き塾活動記録

■巣箱づくり

11月23日(火・祝)、ミラ・フー ド館にて、公民館講座のおやじ塾と合同で野鳥観察のための巣箱づくりが行われました。野鳥の生態については「信州野鳥の会」顧問の丸山隆さん(松本市)から、巣箱の構造や工具の扱いについてはおやじ塾の北澤千弘さん(下竹田)から説明された後、巣箱づくりに取り掛かりました。巣箱づくりはYFRメンバーが主体となって板の切り出し、組み立てを行いました。慣れない作業や道具に悪戦苦闘。板の長さが揃わなかったり釘が思った位置に打てなかったりしましたが、おやじ塾の皆さんが丁寧にフォローすることで、無事に5つの巣箱が完成しました。

筆者は傍からじっと作業を見守っていましたが、慣れない作業の中でも「どうやったら作業しやすくなるだろう?」と試行錯誤を繰り返しながら立派な巣箱を完成させたYFRメンバーにたくましさ・頼もしさを感じました。巣箱はふれあい児童館裏や山形小学校に設置されました。



秋の収穫体験

11月2日(火)、公民館講座生き生き塾が秋の収穫体験を行いました。この日は大豆と大豆の収穫をしました。

大豆は下段でもお伝えしているお豆腐づくりの材料として使用します。大豆の収穫は手間のかかることなのですが、仲間のみんなと話しながら作業をしたことで、楽しく行うことができ、作業もはかどりました。参加者は、「作物を育てるのは大変だ」や「野菜などの食べ物のありがたみを感じました」と話してくれました。

また、11月16日(火)には、白菜を収穫し各自持ち帰り秋の味覚を堪能しました。



豆腐づくり体験

11月30日(火)、山形農村情報センター(エポック館)にて、生き生き塾豆腐づくり体験が行われました。収穫した無農薬の大豆をつぶし熱を加えます。それをおからと豆乳に分けてにがりを入れて固めていきます。「豆腐づくりが一番難しいのはにがりを入れる工程。適温は72度で高くても低くても上手く固まらない」と講師の窪田典子さん(小坂)がポイントや混ぜ方を伝えました。

出来上がった豆腐は48丁で大豆の甘みを感じる美味しい豆腐でした。



おくやみ

- 野口 綾子 97歳 上竹田
- 丸山 正喜 75歳 上竹田
- 中野 昭俊 76歳 下竹田
- 野口 けさ子 84歳 上竹田
- 横山 鶴松 90歳 下大池
- 中村 愛子 90歳 上大池
- 古畑 正 97歳 下大池

※11月の出生は0件でした。

そばで交流深める

おやじ塾と、村内のそば職人と生産者で構成される『日本一のそばの里を創る会（以下、創る会）』が交流会を行っています。新そば祭りが今年もできなかったため、村民との交流の機会を設けたいと創る会が声を掛け実現しました。まず10月28日(木)には創る会が遊休農地を利用して作った畑でそばの刈り取りを行いました。腰の痛くなる作業でしたが、皆で励まし合いながら半日ほどで全て刈り取りました。



12月1日(水)、刈り取ったそばを使って十割そば打ち体験を行いました。「切れない十割そば」を目標に細かなポイントを教わりながら1時間

ほどで完成。切る作業には苦戦しましたが「思ったより早くできたね」とおやじ塾メンバーからは驚きの声が上がっていました。そばは持ち帰り自宅でおいしくいただいたそうです。



寄せ植え講座

10月28日(木)、ミラ・フード館隣のBBQハウスで寄せ植え講座が行われました。講師は花卉農家の小林徹さん(小坂)。今回は年末年始にかけて楽しめる、寒さに比較的強い植物を使った寄せ植えです。『ガーデンシクラメン』や『葉牡丹』をはじめ、10種類の植物から7ポットを参加者の好みで選び、1つの鉢植えを完成させます。

「新型コロナウイルスの影響で家時間が多くなる中、花や植物を



見て和んでほしい」と小林さん。参加者は配色や全体のバランスを考えながら思いおもいにイメージを膨らませて寄せ植え作りを楽しみました。

ヘルシー中華料理

11月23日(火・祝)の国際クッキング講座は、『愛菜華』(塩尻市)店主の荒川孝則さんを講師に迎え、油っぽくなく家庭で作しやすい中華料理ということ

で、焼売・油淋鶏・春雨の中華和えを作りました。子どもたちも野菜を切ったり焼売を包んだり大



活躍。フレッシュな野菜を使った鮮やかな料理が完成し、皆でおいしく食べました。



クリスマス料理をどうぞ

12月11日(土)、ふれあい児童館にて、キッチンとつこが手作り料理を振る舞いました。コロナ禍による制限はありましたが、「忙しい保護者を応援したい。子どもたちには、地元産の食材を皆でおいしく食べて欲しい」という想いで、今年は3回の子ども食堂を開催できました。ハッシュドビーフを初めて食べる子どもも多いようでしたが、何度もお代わりをしてお腹いっぱい満足そうでした。顔のついたポテトサラダは「サンタかな? トナカイかな?」と楽しそうに食べていました。



告知板

山形村公民館報

「館報やまがた」

編集部員

大募集!!

山形村公民館では、来年度「館報やまがた」を一緒に作っていただけの方を募集しています。知っているようで知らない山形村を再発見して記事にしてみませんか?

編集部の醍醐味でもある企画校正会議は見学自由! 詳しい活動内容や報酬については山形村公民館(☎0263・98・3155)へご連絡お待ちしております。

トレーニングセンター印刷室の場所が変わります

令和4年1月より、トレーニングセンター「生きがいの部屋」を改装し、印刷室を移設します。移設に伴い「生きがいの部屋」は1月から、一般貸出しを行いませんのでご注意ください。

●お問合せ 教育委員会
☎0263・98・3155

館報 調査隊

高校への通学手段
アンケート結果から見えた
“山形村の現在地”

10月号で高校への通学手段の調査を行いました。今回は同特集のアンケート結果を元に村民の生の声をお届けいたします。

短期間のアンケート実施にも関わらず、多くの皆様にご回答いただき誠にありがとうございました。

総回答数は各地区偏りなく34件でした。また、下記グラフの通り過半数は保護者からの回答です。

現在の通学手段は自転車通学が最も多く、駅まで、或いは学校までの車送迎と完全自力通学とが丁度半半となりました。自転車通学では、悪天候時が怖い、車との距離が近くて怖い、パンクした時などが不安事項で上がっていました。筆者も往復23kmを毎日通学していたのでとてもよく分かりますが、帰りは時間を気にしなくていい反面、自転

車が故障して歩く羽目になった時は心が折れました。自転車整備はまめに行いましょう。一方、車での送迎では、学校での待ち時間の長さや、送迎する側の負担などが上がっていました。

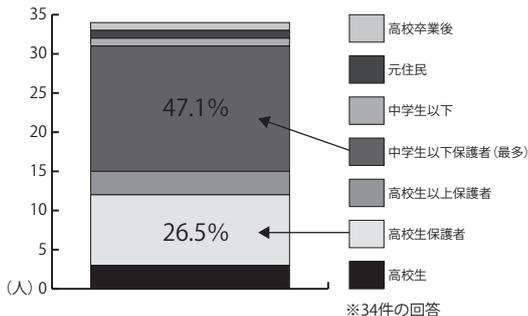
上高地線利用の声では、電車賃が高い、最寄り駅までが遠い、便数の少なさ（時間の融通がきかない）が多く上がっていました。

朝日村営バスの声では、定期がない、便数の少なさなどがありました。

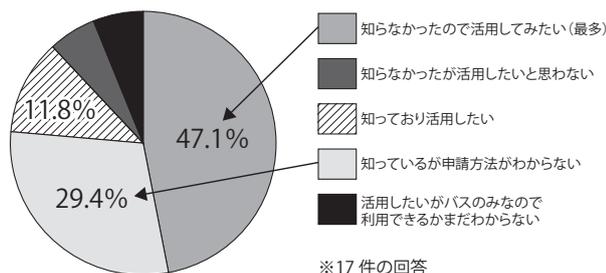
西部地域コミュニティバスの利用者は今回いませんでした。

アルピコ交通山形線の運賃補助制度については、約半数が知らなかったと回答しています。

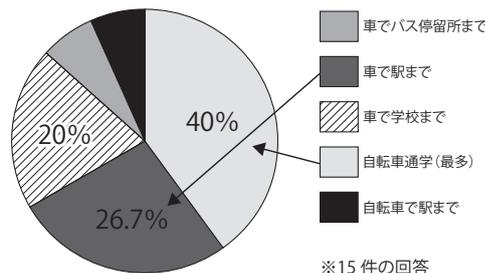
◎あなたの属性について教えてください



◎アルピコ交通山形線の運賃補助制度を知っていますか？



◎通学手段について教えてください



ます。今回のアンケートで同バス利用者はいませんが、通学のオプションとしてご検討いただければと思います。

館報調査隊より

全てのご意見を掲載できませんでしたが、どうかご容赦ください。アンケート結果を通して山形村という地域の特性上、どうしても公共交通機関での通学は不便であると思われました。その結果、自転車での「自力通学」または保護者などの「車での送迎」になってしまうようです。今回の特集・アンケートを通じて高校通学を始め、高齢者や交通弱者など、村民が利用できる公共交通を見つめ直す機会となりました。

高校通学に関する不安・ご感想

- 雨や雪の日の通学が不安。朝部活がある時は車で送迎しなければならぬが、もし家族の誰かが送迎できない場合はどのようにすればいいか不安。
- (自転車で) 雪が降ったときと、道が凍結したとき。
- 自転車専用のレーンがない。車との接触が不安。
- 私が高校生の時は交通手段がなく、冬場など遠い学校に通うのが大変だと思いつ場の高校に決めただけからもう少し交通手段をなんとかしてほしいです。
- 朝日村営バスの鉢盛中(停留所)に駐輪場を希望。
- 上高地線のバスへの乗り換えが大変、土日に乗れる電車が無い。JRへ行くバスがもう少し本数があれば学校に間に合うように通学出来る。(後略)
- まだどの高校に通う事になるのか分からないが、この高校であればこの交通手段があるなど例があれば有り難いと思います。
- バスの時間が登下校とも時間が合わない。朝は学校到着が早すぎるので、利用しづらい。(中略)バスも空席が多いのでもう少し時間を考えれば利用が増えると思います。
- アルピコバスが高すぎるので通学補助金の増額をして頂きたい。

